

大学発アーバンイノベーション神戸 研究成果報告書

令和5年5月24日

申請区分	一般助成型	課題番号	A22115
研究課題名	人流データを活用した神戸観光の推進と商業活性化		
研究期間	令和4年度～令和4年度		
研究代表者	氏名	近藤恵介	
	大学等	国立大学法人神戸大学	
交付決定額(研究期間全体)		195,000 円	

○研究成果の概要（400字以内）

本研究では、人流データの解析により、神戸が目指す「まちの質」の向上という政策課題を解決できる研究を目指した。神戸は、豊かな自然に恵まれるとともに、歴史・文化・芸術にも富んだ日本有数の大都市である。大都市における経済活動は、通勤・通学、出張、買物、観光等の多種多様な目的によって訪れる日々の活発な人流によって支えられているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、ビジネスや観光需要は落ち込み、またテレワークの普及により日常的な移動にも大きな変化が起こりつつある。そこで、人流ビッグデータを活用することで、地域毎の経済状況を日々モニタリングできる評価指標の開発が有効であると考えられる。本研究では、人流ビッグデータに基づく地域魅力度指数の開発を目指し、研究成果を論文としてまとめた。また推計した地域魅力度指数を地図上に可視化するウェブアプリを同時に開発し、本研究成果の社会実装に取り組んだ。

○研究成果の学術的意義や社会的意義（200字以内）

本研究の学術的意義は、どこからどこへ移動したのかという人流データを活用することで、地域固有の魅力度をスカラー指標として推計する手法を提案したことである。

本研究の社会的意義は、民間が持つビッグデータ、神戸大学が持つ専門知識、神戸市が持つ政策立案力という産学官の相互連携を通じて、地域課題解決に向けたエビデンスに基づく政策立案の社会実装の道筋を示したことである。

1. 研究開始当初の背景

新型コロナウイルス感染症の流行により我々の移動は制約され、結果として社会経済に大きな影響がもたらされた。例えば、感染症対策として人々の接触削減が掲げられ、飲食業や観光業等は特に大きな経済的打撃を受けた。またテレワーク推進等の新たな生活様式が普及しつつあり、働き方改革で課題とされていた在宅勤務も進み、以前とは異なる移動も見られつつある。そこで、人流データを詳細に解析することで、神戸が目指す「まちの質」の向上という政策課題を解決できるように研究を開始した。

2. 研究の目的

一般的に経済活動の統計調査の実施からデータ分析まで膨大な時間がかかるため、喫緊の政策課題にリアルタイムに対応できないという課題がある。このような政策課題の解決に向けて、スピード感をもって政策立案を支えていく新たなデータと政策評価の枠組みが必要になる。本研究では、各地域の経済活動を日々モニタリングしながら政策立案の意思決定につなげられるような枠組みを目指し、近年利用が広がっている人流ビッグデータを活用した地域経済の状態を評価する指標開発を目指した。

3. 研究の方法

本研究では、各地域が域外からどれほど人々を集められるのかという観点から地域魅力度指数という概念を考案し、人流ビッグデータを用いて推計する方法を開発した。移動の目的別にどこからどこへという人の流れを調査した「第5回近畿圏パーソントリップ調査」（京阪神都市圏交通計画協議会）のデータを用いることで、地域固有の魅力度を画一的な視点ではなく様々な観点から捉えられるように心掛けた。

4. 研究成果

地域魅力度指数の推計手法を論文としてまとめ、神戸大学経済経営研究所のディスカッションペーパーとして公開した(Kondo, 2023)。また、本研究で提案した地域魅力度指数の推計結果を地図上に可視化できるウェブアプリを開発し、学術研究の社会実装を目指した（近藤, 2023）。今後の応用事例として、携帯電話等の端末から得られる人流ビッグデータから各地域の地域魅力度指数を日々推計し公開することで、産学官連携による地域課題解決の取り組みにつながっていくことが期待される。

<引用文献>

- Kondo, Keisuke (2023) “Measuring the Attractiveness of Trip Destinations: A Study of the Kansai Region,” Kobe University RIEB Discussion Paper Series No, DP2023-07.
(URL: <https://www.rieb.kobe-u.ac.jp/academic/ra/dp/English/dp2023-07.html>)
- 近藤恵介(2023) 「地域魅力度指数」、ウェブアプリ、2023年3月公開
(URL: <https://keisuke-kondo.shinyapps.io/regional-attractiveness-kansai/>)

※大学発アーバンイノベーション神戸による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、神戸市の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。